

第2回 あいち多文化共生タウンミーティング 2021 開催結果報告書

2021年10月23日(土)、愛知県は「多文化共生って?～外国人と一緒に暮らす地域をのぞいてみよう～」をテーマにタウンミーティングを行いました。今年は学生を対象に、全3回の連続講座として企画し、第2回は8名の大学生に御参加いただきました。開催結果は、以下のとおりです。

開催概要

テーマ 「多文化共生って?～外国人と一緒に暮らす地域をのぞいてみよう～」

場 所 あいち国際プラザ2階 アイリスルーム

日 時 2021年10月23日(土曜日)午後2時から午後5時まで

当日の流れ

1 愛知県現状紹介 (説明者 愛知県多文化共生推進室職員)

2 事例報告

①公益社団法人 트레이ディングケア 新美 純子氏

②知立市福祉課 佐藤 浩二氏

3 ワークショップ

1 愛知県の現状紹介

事例報告やワークショップの参考としていただくために、愛知県全体の外国人住民の現状と地域の状況について統計データを元に紹介しました。

2 事例報告

高浜市で活動されている新美様には地域の多文化共生を支える民間団体としての視点から、知立市の佐藤様からは行政の立場からそれぞれの活動についてお話しいただき、地域の現状や外国人と一緒に暮らす地域づくりについて伝えていただきました。新美様の事例報告では、高浜市ベトナム人住民のホン様にお越しいいただき、生の声を伺うことができました。以下はお二人の報告内容の要約です。

①公益社団法人 트레이ディングケア

新美 純子氏

多文化共生は総務省の定義で、異なる国籍の者が互いを認め合い、対等な関係を築き、共に生きていくこと、となっています。日本人の中には、外国人に対する差別や、偏見が根強く残っているのが現状です。しかし、地域の外国人住



民とつながるのは意外と簡単です。彼らは私たち日本人にとって大切なパートナーであり仲間です。外国人住民の方も私たちと同じように、税金を払っていて、それらが我々の生活を支える一部になっています。教育や医療などについて外国人住民に対しても同じようにサポートするべきだと思っています。皆さんも外国人住民の立場に立って考えてみてください。見知らぬ土地で、言葉も分からない状況で、どんな言葉を掛けられたいでしょうか。日本の生活は分からないことばかりで、不安を抱えている外国人住民が多くいます。

日本の人口をみると少子高齢化が進んでおり、働き手としての外国人は重要な存在です。選ばれる日本になるために、多文化共生を推進していく必要があります。私が取り組んでいる「バディシステム」は、ちょっとしたおせっかいです。日常から声を掛けたりすることで外国人住民をサポートしています。日常からつながり、小さな困り事を相談できる信頼関係を、日頃から築いていくことで、緊急時のセーフティネットになります。私たちのバディシステムが目指すのは「緩やかなつながり」です。顔が見える関係をつくることで相互に安心できる地域作りにつながっていきます。私たちは日常的な交流の場として、多文化共生コミュニティセンターの活動や農園での畑作業、地域の資源を用いたスタンプラリーといったイベント等を通じて、人と人を繋ぐ、多文化共生のまちづくりを推進しています。



②知立市福祉課

佐藤 浩二氏

知立市には高齢化や日本語支援が必要な子どもの増加などに伴い、様々な地域福祉に関する課題があります。私はこれまでに様々な人と関わってきましたが、「相談できる人がいたら」、「支えてくれる人が一人でもそばにいれば」といった、人のつながりが、孤独死や虐待等の福祉課題の深刻さに大きな影響を与えているということを強く感じています。地域の課題を解決するには、行政の力だけではなく、地域住民の参加により、つながりをつくる必要がありますが、住民の意識について調査したところ、福祉に関心を持つ人や関わったことのある人が少ないことが分かりました。そこで、地域のことに関心を持ってもらうきっかけ

づくりとして、ワークショップを開催し、行政の様々な部署がサポートできる体制をつくろうと昭和地区で始めた取組が、「昭和未来会議」です。

外国籍の住民が多く高齢化率が高いこの地区で、様々な世代の方に声を掛け、「どんな地域にしたいか」について話し合いました。その結果、「安心して生活でき、若い人にも魅力のある地域にしたい」ということが共通の理想として挙がりました。この実現に向けて、イベントや日常の交流の場づくり、地域の情報発信など様々な案をもとに実際に取組をスタートし、防災をテーマにした競技会を開催し、楽しみながら学べるイベントなどを行い、その後の関係づくりにも発展していきました。

人材の掘り起こしによって様々な人が活躍でき、お互いに支え合う関係づくりに、小さな地域から取り組むことが重要だと思います。地域の中に入っていけるのが行政の強みであり、行政が場をつくることが大切です。どんなきっかけでも、人のつながりをつくるのが良い地域づくりになると思います。

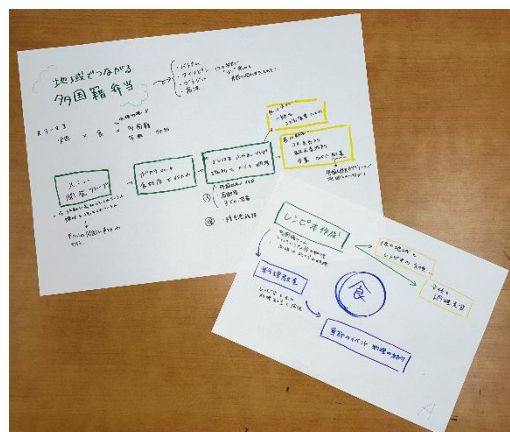
3 ワークショップ

ワークショップでは、2グループに分かれ、ワークシートに沿って外国人と一緒に暮らす地域作りについて学びを深めました。高浜市、知立市それぞれの外国人住民と日本人住民がつながる地域づくりに向けたアイデアを考え、各市の観光地や物などの地域資源の活用を検討しました。ワークショップの最後には、発表を行い、学生ならではの視点から様々なアイデアを聴くことができました。発表内容は以下のとおりです。

A グループ：高浜市の地域づくりアイデア

「地域でつながる多国籍弁当」

コロナウイルス感染症の影響で、なかなか外食できない状況なので、お弁当なら気軽に食べられるだろうという理由でお弁当に決めました。そして、新美さんの事例報告で出た、畑と食に加えて年齢性別、国籍等関係無く楽しめるということを組み合わせ、多国籍弁当としました。内容は、高浜市の外国人住民に多い、ベトナム、フィリピン、ブラジルと高浜市の地元の料理を詰め込み、季節に合わせた地産地消のお弁当を作りたいと考えました。実際の開発について、まず、日本語教室に参加している人や興味を持っている人を集めてメニューを決めていきます。高浜市内のベトナム料理店や、ベトナム食材を扱うお店等で食材を調達し、吉浜ふれあいプラザの跡地や施設の一角を借りて、調理・製造を行います。お昼にはJAの直売所や観光案内所、企業等への配達により販売します。配達を地域の



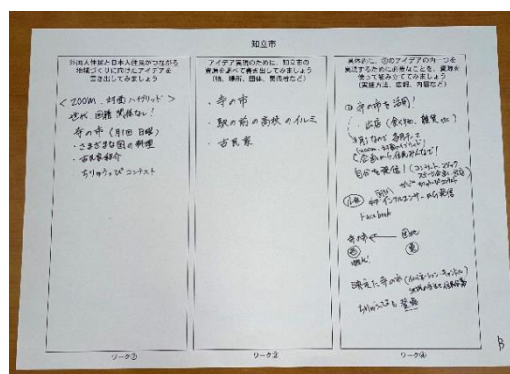
外国人住民の方に協力してもらいながら行うことで、高浜市日本人住民の方と外国人住民の方の交流の機会にしたいと考えています。また、お弁当の売れ残り等は夜に、子ども食堂等へ安価で売ったり、寄付するなどしてフードロスの削減にもつなげ、食の循環を意識しています。

この取組は、外国人住民だけでなく、障がいを持つ人や高齢者の方などともつながるきっかけになると思っています。食でつながる関係づくりについて、お弁当のレシピ本を作成することで、いろいろな国の食文化や高浜市内のお店について知るきっかけになると思います。また、多国籍料理のレシピ本だけでなく、高浜市の料理でレシピ本を作り、他市のレシピ本と交換したり、学校の調理実習等で活用したり、と交流を広げていくことができると思います。料理教室の開催等、季節のイベントに合わせて交流する機会にし、その中で各国の絵本などを紹介することで、料理から様々な文化的交流につなげていくこともできると考えています。

B グループ: 知立市の地域づくりアイデア

「地域全体で作る、誰もが楽しめるイベント」

20代など若い人にも魅力のある、世代や国籍に関係無く地域全体でできるイベントという点を大切に考えました。資源として、知立市で開催されている、「寺の市」を活用したいと考えていま



す。これは、お寺の近くで月に1回日曜日に出店等が並ぶイベントです。知立市の西側で開催されます。東側には外国人住民の方が多く住む団地があるので、団地に住む人にも参加してもらいたいと思っています。具体的には、外国人住民の方に主催側に入ってもらい、ステージでの音楽企画や出店等を実施してもらいたいと思います。広報としては、様々な外国人インフルエンサーの方々に声を掛け、SNSでの広報協力をしてもらいたいです。若者向けの案として、お寺をライトアップするなどして、「映え」を意識した若者に魅力あるイベントしたいと考えています。こうしたアイデアは、住民の方からの公募や地域の学生に携わってもらい、作りたと思っています。また、メインイベントとして、知立のゆるキャラである、ちりゅっぴに誰が一番似ているか、ちりゅっぴ本人に審査してもらい、コンテストを開催したいです。ちりゅっぴのかぶり物やカチューシャを販売するなど、多くの人に楽しんでもらえるイベントにしたいです。

ワークショップについて、新美様、佐藤様から、皆さんの柔軟な意見がとても楽しく、実際に取り入れていきたいと思った、ぜひこれを機に皆さんと今後も繋がっていききたい、とコメントをいただきました。今回のタウンミーティングが、今後の多文化共生の推進に向けた新たなつながりへと発展していくことを願っています。

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。(初参加の参加者のみ回答)

チラシ	0
県のホームページ	0
知人からの紹介	2
SNS	0
所属からのメール	2
その他	2
無回答	0

【その他】大学からのメール、案内

2 今回参加しようと思った理由は何ですか。

- ・多文化共生に興味があったため。自身が外国につながりを持つ子どもたちへ学習支援をしていて、何か活動に生かせると考えたため。
- ・多文化共生をこれからの先の人生で推進し続けていくため。
- ・多文化共生についてのゼミに所属していて、理解を深めたかったため。
- ・卒業論文で愛知県の多文化共生への取組について書こうと思っているため。
- ・多文化共生について他の参加者とたくさん意見交換をしてみたかったため。
- ・多文化共生や多様性に興味があったから。

3 事例報告の感想をお聞かせください。(一つ選択)

とてもよかった	7
よかった	0
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0

感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	5
これまで知らなかった内容を聞くことができた	5
聞いた事がある話ばかりだった	0
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	6
テーマについてもっと知りたいと思った	1
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	6
その他	0
無回答	0

4 ワークショップはいかがでしたか。感想をお聞かせください。(一つ選択)

とてもよかった	7
よかった	0
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0
無回答	0

感想の理由をお聞かせください。

- ・自分では思いつかないようなアイデアをたくさん聞くことができ、学ぶことが多くあった。
- ・多文化共生に関心のある学生と話をする機会はなかなか無く、若者目線の新しい発想や考えを聞くことができたから。
- ・いろいろな意見を聞くことができ、わくわくしました。とても楽しかったです。
- ・自分では思いつかないような意見が出たり、どんどん話を発展させることができた。
- ・いろいろな視点から企画を考えることができ、視野も広がり、楽しかった。
- ・発言の機会が多く、話し合いをすることでワークショップの内容に加えて、各地域の状況を知ることができたから。
- ・他の人と意見を出し合ったり、意見を聞きながら進められた。

5 今回のタウンミーティングについて改善点や感想があれば教えてください。

- ・二つの事例報告の間にそれぞれの質問時間が欲しい。
- ・ワークショップの話し合いの時間をもっと設けることで、より多様なアイデアが出たと思う。
- ・大学のお知らせメールで知ったが、どうしても雰囲気は堅く感じてしまう人が多く感じる。PR 動画など、もう少し馴染みやすいお知らせがあると壁を感じなくなるかもしれない。
- ・事例発表では地域の現状について詳しく知ることができ、とても良かった。
- ・ワークショップでは様々な知識や意見を共有することができて良かった。
- ・実際に多文化共生を実現するためにかつどうしている方のお話を聴くことができて、大変勉強になりました。私たちに何ができるのか、もっと考えたいと思いました。
- ・事例報告の時間がもう少し長くてもいいなと思った。
- ・民間と凝視視の二つの視点から話を聞くことができ、非常に参考になった。それぞれの特徴や強みを知ることができ、自分か活動する上での参考にもなった。

6 今後、今回のようなタウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・外国人住民の方への支援を行う上で、地域住民の方にどう理解してもらうのがテーマになると勉強になります。
- ・日本人、外国人の偏見を取り除く！
- ・災害と外国人というテーマで、多文化共生を考えたいです。
- ・実際に今回考えた企画のイベントを実現に移すきっかけとなる機会があるといいなと思いました。
- ・大学内でこういったイベントを開催したいと思った。
- ・企画を通していろいろ学べる内容で良かった。外国人住民の方の参加も集って一緒にまちづくりを考えればいいのか。
- ・大学生にもっと多様性について知ってもらう機会をどのように作るかについて話し合いたいです。
- ・コロナ禍での団体の活動について、他団体の取組をお聞きしたいです。

7 愛知県の多文化共生への取組について、何かご意見があれば教えてください。

- ・今回、知人の方に紹介してもらって知ったので、イベント情報などが探しやすいと助かります。大学などへお知らせがあるともっと興味を持って参加してくれる人が増えると思いました。
- ・地域毎に配慮すべきことが異なると思うので、他の市や県の取組について学べる機会があるといいと思います。
- ・外国人の方のライフイベントに応じたサポートはとても重要だと思いました。

8 回答者様についてお教えてください。(一つ選択)

高校生	0
大学生	11
大学院生	0
その他	0
無回答	0

今回、初めての参加の方にお聞きます。

普段、多文化共生や国際理解教育に関する活動をしていますか。どんな活動ですか。

- ・外国人技能実習生との交流(主にインドネシア人)
- ・地域課題解決、市民活動団体の運営(外国ルーツの方々を支援、日本語学習支援等)

おわりに

今回のタウンミーティングを通して多文化共生について、皆様が暮らしている地域の現状に目を向けるきっかけとなり、理解促進に繋がって欲しいと思います。参加してくださった皆様、ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、2018年3月に策定した「あいち多文化共生推進プラン2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしています。日頃、多文化共生に関心を持って活動されている方も、そうでない方も、参加していただくことができます。今後も開催して参りますので、ぜひ御参加ください。



愛知県多文化共生シンボルマーク